

平成20年度後学期 学生による授業評価アンケート調査（最終）
「アンケート結果に応じて」

所属部局	人文学部		氏名	滝沢 誠	
講義コード	2315013010		講義名	考古学概論 I	
開講曜日	木曜日	3・4時限	専門科目	・ 全学教育科目	
授業回数	15回	休講回数	0回	補講回数	0回
				受講登録者数	100人
成績評価に際し注意した事項					
シラバスに示したとおり、学期末試験に出席確認の結果を加味して評価した。 学期末試験では、授業内容の理解度を判定した。					
報告内容					
①授業の概要					
<p>考古学の基礎を学ぶことを目的とした人文学部1・2年生対象の専門科目。授業の前半では、考古学史、考古学の方法など、考古学一般に関する入門的内容の講義を行い、後半では、日本考古学の現状について時代別に概説を行った。また、最終回には日本の各地で深刻さを増す埋蔵文化財問題についても取り上げた。授業では、毎回パワーポイントを使用し、その内容に則した2〜3枚程度の資料を配布した。</p>					
②アンケート結果について					
<p>設問1〜13のうち、11項目はいずれも満足率が85%を超えており、おおむね授業内容について受講生の満足度は高かったものと考えている。とくに自由記述欄には、パワーポイントを活用して授業を進めた点（とくに写真や図の提示）について、「わかりやすかった」という意見が多く寄せられた。また、毎回配布した資料の内容についても肯定的な意見のみが寄せられた。一方で、やや満足度が低かった項目は、問7「学生の反応を確かめながら講義をしていた」と問10「学習の雰囲気・秩序を保とうとしていた」の2項目である。いずれも学生からみた重要度は必ずしも高くないようであるが、前者については、授業の中での質問を増やすなどして学生の反応を確かめるよう改善を図っていきたい。また、後者については、一部の学生による私語や遅刻入室を指しているものと推測するが、ある程度広い教室では、授業の妨げとなる行為を十分に把握しがたいという現実もある。とはいえ、今後は口頭での注意のほか、教室全体を巡回するなどして授業の秩序を保つよう心がけたい。</p>					
③今後の授業改善に向けて					
<p>今回の授業では、実物資料の提示のほか、黒曜石の観察（受講生全員に配布）や縄文原体の作成など、体験的な学習を取り入れた。この点については、授業記述欄に「理解が深まった」との意見が寄せられるなど、総じて好評であったと考えている。受講生数によっては実現しにくい企画もあるが、今後とも考古学の特徴を活かした体験的な学習を工夫し、積極的に取り入れていきたい。</p> <p>配付資料についても、穴埋め部分やメモ欄を設けるなど、これまでになく工夫を試みた。メモ欄については、中間アンケートでその有効性について問いかけを行ったが、非常に便利であるという意見が多かったため、継続することとした。配付資料の有効利用についても、さらに改善を進めていきたい。</p>					
<p>アンケートの自由記述欄には、この授業をつうじて「考古学への興味が深まった」、「毎週の授業が楽しみでした」という意見が少なからず寄せられた。こうした意見は、授業を担当する教員にとっての大きな励みであり、今後もそうした受講生の興味、関心を引き出せるような授業を心がけていきたい。</p>					